

別記  
第1号様式(第14条関係)

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	平成29年 7月 31日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府福知山市長田野町二丁目2番地	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 武田ヘルスケア株式会社 代表取締役 有本 恵一郎

環境マネジメントシステムの名称	環境マニュアル JIS Q14001:2015/ISO 14001:2015
適用範囲	武田ヘルスケア株式会社でのあらゆる活動、製品及びサービス
導入年月日	<登録日> 平成19年 11月 16日 (ISO14001:2004)
認証番号	07ER-674
基本方針	EMS活動を積極的かつ継続的に推進する。 (1) 資源・エネルギーの効率的利用と廃棄物の埋立・焼却処分量削減を目指す。 (2) 製造工程の環境への影響を評価する。 (3) 環境に影響を及ぼす不測時の対応を確立する。 (4) 社員一人ひとりが環境問題の重要性を理解し活動できるよう計画的に教育する。 (5) 環境保護活動の活性化と地域活動への積極的参画に努める。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	<2017年度数値目標> 1. 法規制の順守: 環境関連法規制に関する届出を100%実施する 2. リサイクル使用の推進: リサイクル率アップへの取り組みを検討し全廃棄物量に対して65%にする 3. 廃棄物の低減: リサイクル処分を除いた2015年度廃棄物の10%を削減する 4. 省エネルギー: 2015年度電気使用量の3%増を維持する・2015年度ガス使用量を維持する 5. 省資源: 2015年度上水使用量を維持する
目標を達成するための取組の内容	1. 貫流ボイラの効率的運転・省エネタイプコンプレッサの導入・不要照明消灯・空調機運転制限・不要用役機器停止・全員参加の環境活動手順の順守など 2. 上水使用量の把握と周知・節水周知教育実施・節水の啓発など 3. 分別確認表による確認・コピー用紙分別廃棄・埋立・焼却処分廃棄物のリサイクル処分先候補選定、手袋のリサイクル処分化など 4. 廃糖衣液の排水処理設備での処分検討(廃棄用原料と労力削減) 5. ヒューマンエラーの撲滅(人的要因による生産ロス撲滅) 6. 海外新製品への対応(UPLCを用いた試験法適用による分析時間短縮、省溶媒化) 7. 就業管理システム導入(労力、エネルギーの削減) 8. 届出業務管理表を用いた順守状況確認など
目標を達成するための取組の進捗状況	前年度と同様に、各部門共、全員参加の環境活動手順書の順守に併せて、部門として不要用役機器の停止・空調機の運転制限、適正運転・圧空漏れ箇所修理によるコンプレッサ効率的運転・高効率トランスの導入・貫流ボイラ導入に伴う効率的運転・原料試験省略の実施等、電気・ガス使用量削減に取組んだ。また、無駄なコピーの防止、両面印刷の推進、裏刷り紙の使用を継続して推進、廃棄物としては、金属・ガラス瓶・コピー用紙・新聞・雑誌類・ダンボール・空瓶・包材紙管等・廃プラスチック(ポリ袋類)の継続的なりサイクル処分の実施に併せて、2016年度からは、PTP屑類(廃プラスチック)のりサイクル処分(委託)を開始している。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	「全員参加の活動手順書」を順守し、全社の環境(省エネルギー・省資源・リサイクル使用の推進・廃棄物の低減・法規制の順守)達成のため、各部門共、部門の目的目標を設定し、概ね計画通りに取組み、廃棄物の低減(リサイクル処分を除いた廃棄物の低減)及び法規制の順守(届出の100%順守)については、目標を達成したが、その他、目標項目である省エネ、省資源、リサイクル使用の推進については、生産量増加やボイラ給水不良に伴うドレン水の未回収等の影響などで、目標未達成となった。
事業活動に係る法令の遵守の状況	毎年4月に関連する環境法規制の順守状況を定期的に評価するため、ISO事務局が「環境法規制等登録表」に従い、順守評価し、環境管理責任者に報告する。 平成28年度は、順守状況に問題はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	これまで取組んでいたISO活動は、社内のEHS活動(環境安全防災)と取組み内容が重複する部分があった。このことから、ISO活動は、EHS活動に統合して取組むよう様式類(実施計画書等)の見直しを行うと共に規格を2015年版に見直しを行い、2017年4月より推進している。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。